

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

上北山の活性化拠点と村民主役の村づくり推進事業計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

奈良県吉野郡上北山村

3 地域再生計画の区域

奈良県吉野郡上北山村の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

定住人口の減少と雇用機会の減少が相まって、地域活力は年々低下している。社会環境でも労働人口や雇用の場が少ない地域の活力向上は望みが薄く、来たる超高齢化に向け地域社会での繋がりや各種サービスの担い手が重要となるため、住民相互の助け合いをはじめとした様々な地域活動への主体的な参画が必要である。本村の将来を担う人材の育成は、村づくりの基盤となるとの認識から、移住・定住促進や新産業創出のためにも、人材の確保と育成を図ることが急務の課題である。

4-2 地方創生として目指す将来像

自然や歴史・文化、人的資源を活かして固有で新たな発展をもたらすため、それらを活用していく人材の育成と地域コミュニティの再構築への取組みを進める。また、地域特性を活かしながら「住み」、「働き」、「学び」、「遊ぶ」機能と魅力を拡充し、誰もが快適に、楽しく生活できる環境整備を進める。本村には、自然との共生、自然への敬愛、保全・活用を通じて築きあげられた「心」が息づいている。その特性を発揮し、交流を通して、人、モノ、情報のネットワーク化を拡充し、本村が担える役割を明確にし、内外の人々に感動を与え、共感を呼び起こす村づくりと基盤整備を推進する。そして、住民や住民グループの活力を発掘し、他地域や人材との多様な交流を通じて、本村の魅力を再発見し、活用しつつ、新時代に求められる新しい地域活力を創出しながら、この施設を活動拠点とし、施設の利用価値や可能性の向上策を模索し、「管理・運営」他、新産業の発掘、経営に至るまで自立した組織への育成と創出を目指す。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成 29 年度 増加分 (1 年目)	平成 30 年度 増加分 (2 年目)	平成 31 年度 増加分 (3 年目)
宿泊施設 利用料金収入 【年間】 (千円)	0.00	0.00	40.00	80.00
コミュニティ カフェ売上高 【月間】 (千円)	0.00	0.00	110.00	30.00
施設利用者数 (人)	0.00	0.00	150.00	50.00

	平成 32 年度 増加分 (4 年目)	平成 33 年度 増加分 (5 年目)	K P I 増加分の 累計
宿泊施設 利用料金収入 【年間】 (人)	120.00	160.00	400.00
コミュニティ カフェ売上高 【月間】 (千円)	30.00	30.00	200.00
施設利用者数 (人)	50.00	50.00	300.00

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

旧小学校舎を宿泊施設や食堂兼用のコミュニティカフェとして整備運営し、地域内外間の住民交流と地域の多世代交流を図り、相互の利便性と住民の活躍の場を創造するとともに、現在、急速に動き出した住民グループが集い、様々なアイデアを出し合い、新たな分野への取組を広げ、自立する力を高める。また、村民が山村としての歴史と向き合いながら、村民が主人公となり、山里の暮らしや山里文化から産業の広がりや活性化を探り、醸成を図る。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

上北山村

② 事業の名称：旧上北山小学校を利活用した活性化拠点と村民主役の村づくり推進事業

③ 事業の内容

廃校となった小学校校舎を利活用し、1階部分は、宿泊施設として整備し、食堂兼用のコミュニティカフェを運営し住民の活躍の場を創造する。宿泊施設として使われない時期は、村民に広く開放し、地域の多世代交流を図る。2階部分は、住民グループの活動拠点として様々な団体が集うことができるよう整備する。3階部分は、「知る」、「調べる」ほか、多くの機能を有した村で初めての「小さな図書館」や「音楽と映像の交流室」、「村民の社会教育と生涯学習室」、「多目的ルーム」を整備し、地域外住民との交流や地域の多世代交流の拠点施設として、地域のコミュニティの活性化を図り、人材の確保と育成を目指す。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

簡易宿泊施設やコミュニティカフェ、住民グループの活動拠点の整備を行なうことで、将来的には、NPO法人等が管理運営を担い、自立した経営を実践させる。また、村内外の多世代の交流を推進することで、新たな産業と雇用の創出が期待される。

【官民協働】

社会教育や生涯学習、介護予防等、健康づくり事業との連携のための指導者の育成のほか、その育成した指導者や民間指導者により各種教室を行っていく。また、木工品や食品等の特産品開発など、地域産業の育成支援を行ない、村民主導、民間協働体制の構築を実施する。

【政策間連携】

新たな人の流れをつくるためにも、村の総合計画の基本構想である「誇りと愛着が持てる村づくり」を重点項目として捉え、村民一人ひとりが、様々な本村の魅力を再認識し、それを契機に自然、歴史・文化、産業資源を掘り起こし、経営に繋げることで雇用機会の創出と人材の育成を図る。また、古来、紆余曲折の歴史を繰り返しながらも、

様々な難題を乗り越えて歩んできた本村の伝統と風土のもとで、新たな可能性を探り、社会教育や生涯学習が実践できる環境や機会を提供し、多世代交流を促進することで、高齢者に対する福祉活動の協働と連携が芽生え、住民相互のふれ合いや連帯感を深める地域コミュニティの再構築と醸成を目指す。住む人が快適で、訪れる人が魅力を感じる村づくりに向けて、安らぎある環境整備や心のふれ合いのある環境づくりに努め、村民同士が支え合い、誰もが将来不安のない村づくりを推進する。

⑤ 重要業績評価指数 (KPI) 及び目標年月

	事業開始前 (現時点)	平成 29 年度 増加分 (1 年目)	平成 30 年度 増加分 (2 年目)	平成 31 年度 増加分 (3 年目)
宿泊施設 利用料金収入 【年間】 (千円)	0.00	0.00	40.00	80.00
コミュニティ カフェ売上高 【月間】 (千円)	0.00	0.00	110.00	30.00
施設利用者数 (人)	0.00	0.00	150.00	50.00

	平成 32 年度 増加分 (4 年目)	平成 33 年度 増加分 (5 年目)	K P I 増加分の 累計
宿泊施設 利用料金収入 【年間】 (人)	120.00	160.00	400.00
コミュニティ カフェ売上高 【月間】 (千円)	30.00	30.00	200.00
施設利用者数 (人)	50.00	50.00	300.00

⑥ 評価方法、時期及び体制

【検証方法】

平成 30 年 6 月時点における事業の実施状況や実績、K P I の進捗状況について取りまとめ、上北山村まち・ひと・しごと創生総合戦略作成メンバーにより検証を実施する。また、必要に応じて議会に対しても効果検証の内容について報告を行なう。

【外部組織の参画者】

- ・地域再生型ツアー研究会代表（旅行会社常勤顧問）[産業]
- ・奈良学園大学教授 [教育]
- ・南都銀行北山支店支店長 [金融]
- ・上北山村商工会会長 [労働]
- ・朝日新聞奈良総局記者 [言論]
- ・上北山村区長会代表 [住民代表]

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・法第 5 条第 4 項第 1 号イに関する事業【A3007】
総事業費 120,000 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成 34 年 3 月 31 日（5 カ年度）

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

（1）地域外住民との交流事業

事業概要：宿泊施設として整備するとともに、食堂兼用のコミュニティカフェを運営し、郷土料理や家庭の自満料理を提供する等、相互の利便性と住民の活躍の場を創造しながら交流の機会を広げる。

事業主体：上北山村

事業期間：平成 30 年度～平成 33 年度

(2) 地域の未来を支える住民力の育成事業

事業概要：現在活動している住民グループを集結させ、相互が様々なアイデアを出し合い、新たな分野への活躍の場を広げて行くとともに、自立した力を高めていく。

事業主体：上北山村

事業期間：平成 30 年度～平成 33 年度

(3) 誇りと愛着が持てる村づくり事業

事業概要：村の歴史・文化的資料や図書の保管と閲覧、幼児・児童図書の充実を図り、「小さな図書館」として、また、村民の社会教育や生涯学習室、音楽と映像の交流室等を整備し、子どもからお年寄りまでが村の歴史や文化の大切さを理解し、自らの誇りとして未来へと繋いでいくとともに、地域の活性化を目指す。

事業期間：平成 30 年度～平成 33 年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 34 年 3 月 31 日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

【検証方法】

月末ごとの K P I の動向を分析しつつ、毎年度、6 月時点における事業の実施状況や実績、K P I の進捗状況について取りまとめ、上北山村まち・ひと・しごと創生総合戦略作成メンバーにより検証を実施する。また、必要に応じて議会に対しても効果検証の内容について報告を行なう。

【外部組織の参画者】

- ・地域再生型ツアー研究会代表（旅行会社常勤顧問）[産業]
- ・奈良学園大学教授 [教育]
- ・南都銀行北山支店支店長 [金融]
- ・上北山村商工会会長 [労働]
- ・朝日新聞奈良総局記者 [言論]
- ・上北山村区長会代表 [住民代表]

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

	事業開始前 (現時点)	平成 29 年度 増加分 (1 年目)	平成 30 年度 増加分 (2 年目)	平成 31 年度 増加分 (3 年目)
宿泊施設 利用料金収入 【年間】 (千円)	0.00	0.00	40.00	80.00
コミュニティ カフェ売上高 【月間】 (千円)	0.00	0.00	110.00	30.00
施設利用者数 (人)	0.00	0.00	150.00	50.00

	平成 32 年度 増加分 (4 年目)	平成 33 年度 増加分 (5 年目)	K P I 増加分の 累計
宿泊施設 利用料金収入 【年間】 (人)	120.00	160.00	400.00
コミュニティ カフェ売上高 【月間】 (千円)	30.00	30.00	200.00
施設利用者数 (人)	50.00	50.00	300.00

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

毎年度、検証後、速やかに上北山村ホームページ及び広報において公表を行なう。